
 免疫介在性ニューロパチーにおける新たな診断ツールの確立

_____ ギラン・バリー症候群、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー、多巣性運動ニューロパチー、血管炎・膠原病に関連した炎症性ニューロパチーなどの免疫介在性ニューロパチーの診断には従来、神経伝導検査や神経生検が用いられています。一方でこれら検査のみでは診断が難しい患者さんが少なからずいらっしゃいます。そのような患者さんにおいて神経筋の形態変化を調べる超音波検査や末梢神経を広範囲に検索できる体性感覚誘発電位が診断に役立ったという報告が相次いでいます。しかしこれらの新しい検査は発達段階です。本研究では免疫介在性ニューロパチー患者さんの診断において新たな診断ツールである神経筋超音波や体性感覚誘発電位がどのように役立つかを明らかにします。

 1996 4

 DVD-R
TARC

10

TARC

TARC